

課題

【国語】自分の考えをもち、伝え合うことが苦手

手立て

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用し、児童・生徒の思考によりそった授業づくりを行う

具体例

POINT① 考えをもつまでの学習過程を重視する

○自分の考えをもつための手立てを充実させる

- ・働かせたい「言葉による見方・考え方」を意識した発問を準備する。考える時間を確保する。
- ・互いの立場や意図、条件をはっきりさせ、分かったことや疑問点を整理する過程を丁寧に行う。
- ・思考の過程を可視化する。
- ・考えを形成する際、そう考えた理由や根拠を明確にする。

《「思考ツール」①や「考えるための技法」②を、各教科・領域で横断的に活用》

児童生徒が意識して考える視点の移動ができるよう、国語科以外の教科・領域でも共通理解を図り、活用する。

→自分の考えを整理したり、正確に捉えたりすることができる。

① 県総セ カリキュラム開発部

『思考スキルに応じた思考ツール活用』

② 小・中 総合的な学習の時間

学習指導要領

POINT② 対話によって自分の考えを高める

○考えが独りよがりにならず、立場や条件に沿って伝え合えるよう、まとめ、表現する視点を確認する。

○文末表現やつなげる言葉を工夫するなど、既習事項を取り入れながら書き、思考を統合させる。

○自分の考えと比較しながら友達の考えを聞き、よいところを柔軟に取り入れて、考えを再構築する場を設定する（話し合う活動を通して考えを深める）。

《頭の中のイメージや考えを言葉で表現できるよう、系統的に語彙を広げる》

小学校第3・第4学年

様子や行動、気持ちや性格を表す語句

小学校第5・第6学年 思考に関わる語句

中学校第1学年 事象や行為、心情

中学校第2学年 抽象的な概念

中学校第3学年 理解・表現に必要な語句

【学習指導要領 第2章第2節2語彙】

POINT③ 言語活動を充実させ、認めて称賛する場を増やす

○伝え合うことの「手応えと喜び」を感じる成功体験を重ねる

・生活ノートやミニスピーチ（スモールステップから。心理的負担を配慮。）の活用。

・学校行事などの、心が揺さぶられた体験後の作文（共有 評価・反響の場づくり）。

→認められることで自己肯定につながり、積極的な表現や書くことへの自信につながる。

→記述を通して自分の考えを整理し、理解を深める。共有から自他のよい点を学べる。